

平成28年度実施分

協働事業

市民活動助成事業



事業紹介



松戸市

はじめに

松戸市では、「豊かで活力ある地域社会の実現」をめざして、市民及び市民活動団体、民間事業者と市による「協働のまちづくり」を推進しております。

その支援として、市民活動団体・民間事業者の活力を活かし、市と事業の企画から実施までを協力して行う「協働事業提案制度」と、新たな市民活動の立ち上げや既存の活動を発展させる「市民活動助成制度」があります。

【協働事業提案制度】

協働事業は、市民活動団体や民間事業者と行政のそれぞれが強みの部分を活かし、身近にある地域課題の解決に向けて、協力して実施する事業です。

協働事業提案制度は、市民活動団体や民間事業者が、協働事業を提案し、市と協力して、その事業を企画し、実施する制度です。

平成 28 年度は 3 事業実施しました。

【市民活動助成制度】

新たな市民活動を立ち上げるため、又は、既存の活動をさらに発展させるための事業に要する一時的な資金を助成することで、市民活動の活性化を図り、豊かで活力ある地域社会の実現に貢献することを目的とします。

平成 27 年度実施分より、スタート助成及びステップアップ助成の 2 つの部門を設けております。

新しく事業を立ち上げるときや、今行っている事業を発展させたいときに提案できる「スタート助成（助成上限額 10 万円）」と、既存事業を拡大、発展させたいときに提案できる「ステップアップ助成（助成上限額 30 万円）」です。

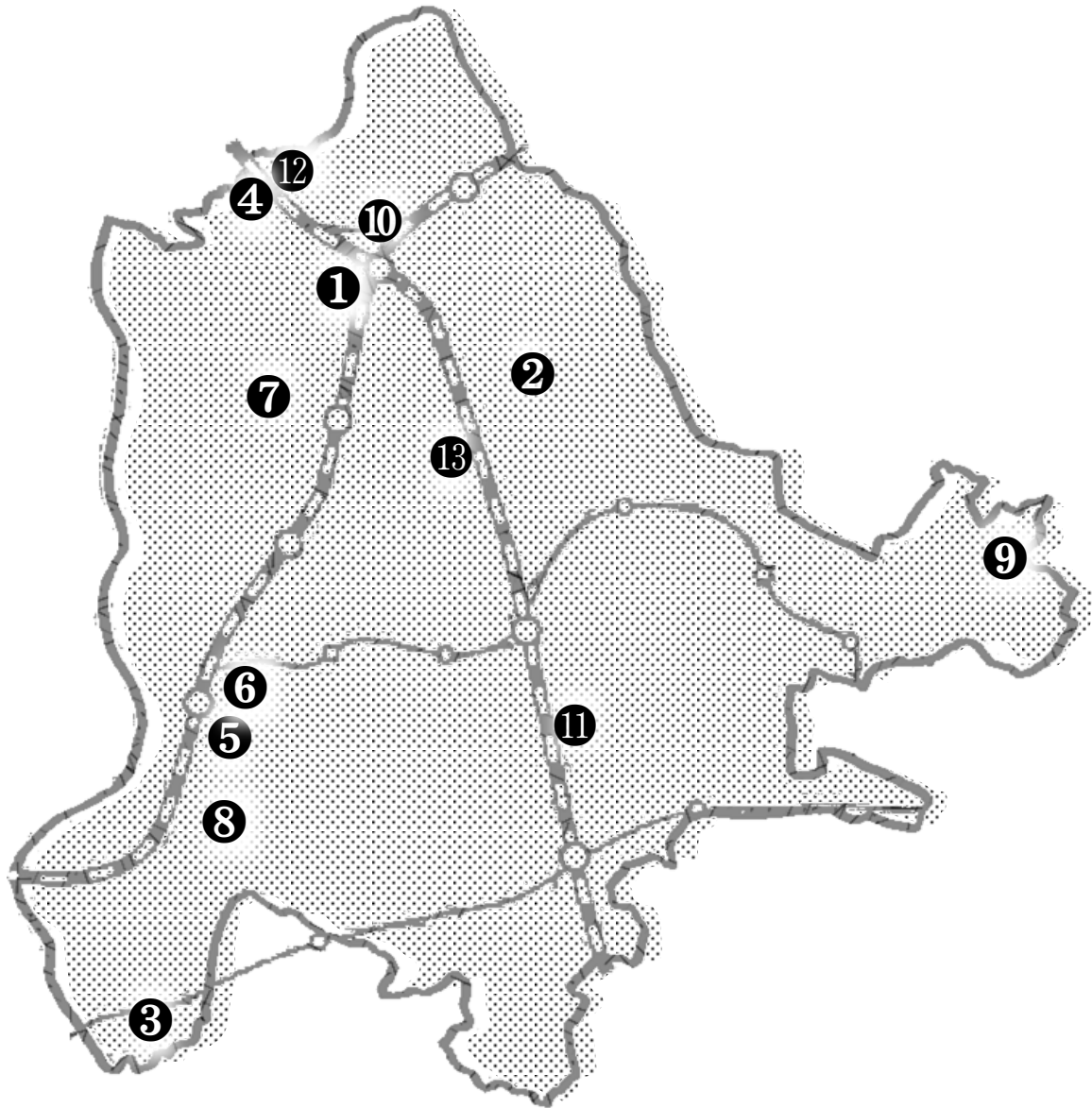
平成 28 年度は 10 事業（スタート助成 7 事業、ステップアップ助成 3 事業）実施しました。

目 次

平成28年度協働事業・市民活動助成事業 事業紹介

【協働事業】	ページ
○ 空き家利活用等相談事業	特定非営利活動法人空き家安全管理ネットワーク 住宅政策課空家活用推進室 1
○ 地域連携自主防災事業	栗ヶ沢中学校地域防災委員会 危機管理課 2
○ 講演会を軸とした協働啓発事業	特定非営利活動法人まつどNPO協議会 市民自治課 3
【市民活動助成事業(スタート助成)】	ページ
○ 「カレーを食べる会」事業	五番街ふれあいセンター 4
○ 「認知症に備える」為の啓発活動事業	介護・認知症の家族と歩む会・松戸 5
○ 健常児・障がい児ミックス型共育を楽しむ事業	共育ステーション 地球の家 6
○ 子どもと高齢者の交流事業	子どもの未来を考える会 7
○ 公共サインの改善で松戸の街並みをレベルアップする事業	都市環境デザイン学研究室 公共サイン研究会 8
○ 認知症を吹き飛ばせ！健康寿命を延ばそう事業	介護予防と認知症サポートの会「しゃぼん玉倶楽部」 9
○ 医療・介護・福祉を学ぶ会事業	千葉県 東葛介護・福祉塾 10
【市民活動助成事業(ステップアップ助成)】	ページ
○ 河原塚史編纂事業	河原塚史編纂委員会 11
○ 「高校進学のための学力アップ教室」事業	認定NPO法人外国人の子どものための勉強会 12
○ 地域連携による成年後見制度の普及・啓発・利用促進事業	認定NPO法人 東葛市民後見人の会 13
● 協働のまちづくり基金について	14
● 協働のまちづくり基金 寄附者一覧(平成28年度)	15

実施団体の活動拠点MAP



		団体名	活動拠点	ページ
協働事業	①	特定非営利活動法人空き家安全管理ネットワーク	新松戸	1
	②	栗ヶ沢中学校地域防災委員会	小金原	2
	③	特定非営利活動法人まつどNPO協議会	栗山	3
市民活動助成事業	④	五番街ふれあいセンター	新松戸	4
	⑤	介護・認知症の家族と歩む会・松戸	松戸	5
	⑥	共育ステーション 地球の家	小根本	6
	⑦	子どもの未来を考える会	西馬橋相川町	7
	⑧	都市環境デザイン学研究室 公共サイン研究会	松戸	8
	⑨	介護予防と認知症サポートの会 「しゃぼん玉倶楽部」	六高台	9
	⑩	千葉県 東葛介護・福祉塾	新松戸	10
	⑪	河原塚史編纂委員会	河原塚	11
	⑫	認定NPO法人外国人の子どものための勉強会	新松戸	12
	⑬	認定NPO法人 東葛市民後見人の会	八ヶ崎	13

協働事業

空き家利活用等相談事業	協働事業者	特定非営利活動法人 空き家安全管理ネットワーク
	事業担当課	住宅政策課空家活用推進室

【事業内容】

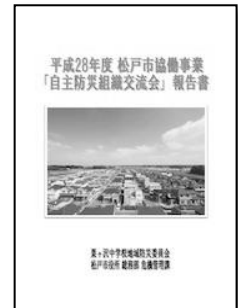
<p>平成 28 年度事業の取り組み</p> <p>数年前から“空き家”が大きな社会問題となっています。当NPOでは、1件でも多くの空き家が利活用されることを目指してセミナーを開催し、空き家についての問題意識の啓発に取り組んで来ました。自治会・町会との連携も一部実施しましたが、思うような成果を出せない最大の課題は空き家所有者へのコンタクトができないことでした。</p> <p>セミナーは情報提供の場として有効な手段と考えていますが、NPOだけでは空き家所有者にセミナー開催を伝える手段がありませんが、協働事業によりこの課題を解決できることになり、以下の目標に取り組みました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 セミナーを3回以上開催し、300人以上の参加者を集める。 2 空き家利活用に関する相談を60件受け付ける。 3 空き家利活用の提案を20件以上実施する。 	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td style="text-align: right;">128,620円</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td style="text-align: right;">45,928円 (労力換算額: 203,500円)</td> </tr> <tr> <td>負担金</td> <td style="text-align: right;">82,692円</td> </tr> </table>	事業費	128,620円	自己資金	45,928円 (労力換算額: 203,500円)	負担金	82,692円
事業費	128,620円						
自己資金	45,928円 (労力換算額: 203,500円)						
負担金	82,692円						
<p>平成 28 年度事業の成果</p> <p>セミナーを通じて、空き家所有者への情報提供、相談受付及び利活用案提案に取り組む以下の成果を得られました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 セミナー開催回数：2回（当NPO・担当課双方の都合で2回となりました） 2 参加者：合計112名（第1回70名、第2回42名） 3 相談受付：合計24件（第1回セミナー後の電話申込5件、第2回19件） 4 空き家利活用に関する提案件数：所有者からの24件の相談に対し、今年度末までに14件の提案ができました。 5 提案実現：1件（第2回セミナーが2/25であったことから、今年度は提案までで実現は29年度と想定していましたが、1件について所有者の同意により空き家が解体されることが決まりました。） <p>*引き続き新たな提案で、空き家利活用の実現に取り組めます。</p>							
<p>【協働事業者紹介】</p> <p>団体名：特定非営利活動法人 空き家安全管理ネットワーク 住 所：千葉県松戸市新松戸 電 話：047-321-6566 FAX：047-710-8470 E-mail：anzenkanri@akiya-npo.com URL：http://www.akiya-npo.com/about.html</p> <p>《問合せ先》 理事長 新井 孝</p>							

協働事業

地域連携自主防災事業	協働事業者	栗ヶ沢中学校地域防災委員会
	事業担当課	危機管理課

【事業内容】

<p>平成 28 年度事業の取り組み</p> <p>栗ヶ沢地域防災委員会(以下、栗防と略)は、地震等による大災害時に地域として対応するため平成 24 年に発足した。目的は災害時における地域の収容避難所の円滑な開設運営、要配慮者に対する地域全体での支援を目指している。平成 28 年度事業は、栗ヶ沢小学校および貝の花小学校における収容避難所解説訓練、市内自主防災組織との交流会(二回)および報告書作成、講演会実施(二回)、要配慮者支援会議の実施(三回)、栗防通信の発行(一回)である。</p> <p>収容避難所開設訓練は今年で四回目であるが、今回は初めて町会単位での住民安否訓練を行い、その後、収容避難所の開設を訓練した。</p> <p>自主防災組織の交流会は、市内で活発に活動している団体とそれぞれの活動状況を報告や、共通の問題等を話し合う絶好の機会となった。それまでは各団体がそれぞれの地域で孤軍奮闘していたが、交流会を通じて他団体の先進的な取り組みを知る機会となり、非常に有益であった。この交流会の内容は報告書としてまとめられている。</p> <p>要配慮者支援会議は平成 27 年度より開催していたものを、危機管理課の主導のもと、より具体的な地域の団体それぞれの役割分担を明確化できた。地域としての要配慮者を支援の骨子が完成した。</p>	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td style="text-align: right;">700,030円</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td style="text-align: right;">200,030円 (労力換算額:860,000円)</td> </tr> <tr> <td>負担金</td> <td style="text-align: right;">500,000円</td> </tr> </table>	事業費	700,030円	自己資金	200,030円 (労力換算額:860,000円)	負担金	500,000円
事業費	700,030円						
自己資金	200,030円 (労力換算額:860,000円)						
負担金	500,000円						
<p>平成 28 年度事業の成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 栗ヶ沢小学校および貝の花小学校での収容避難所開設運営訓練(11/12、参加者 250 名) 2 自主防災組織交流会の開催(10/28 および 2/14、参加者延べ 60 名) 3 講演会の実施(12/17 および 1/28、講演者は秋元訓子氏および村井晶子氏、参加者は各々およそ 80 名) 4 要配慮者支援会議の実施(4/22、7/29、3/24 の三回、各会出席者はおおよそ 40 名) 5 栗防通信の発行(第 7 号、6500 部を栗中地域の全世帯に町会・自治会を通じて配布) 							
<p>平成 29 年度事業の目標</p> <p>例年通りの事業(避難所開設運営訓練、災害図上訓練、講演会開催、および栗防通信の発行)に加え、要配慮者支援会議にて具体案の作成、および松戸市内自主防災組織との交流継続を計画している。</p>							
<p>【協働事業者紹介】</p> <p>栗ヶ沢地域防災委員会</p> <p>構成団体：小金原五丁目町会、小金原六丁目町会、小金原 6-7 住宅組合、小金原団地分譲住宅自治会、小金原団地自治会、小金原七丁目東町会、小金原七丁目西町会、小金原八丁目町会、小金原九丁目町会、小松園自治会、栗ヶ沢連合町会</p> <p>《問合せ先》</p> <p>栗ヶ沢地域防災委員会、電話 047-330-4704、FAX 047-330-4704、 Eメール kuri.dpc.root@gmail.com、ホームページ：https://sites.google.com/site/kuridpc/、 担当者 岩崎義仁</p>							



協働事業

講演会を軸とした協働啓発事業	協働事業者	特定非営利活動法人 まつどNPO協議会
	事業担当課	市民自治課

【事業内容】

平成 28 年度事業の取り組み

協働によるまちづくりの推進を実現するには、市民・行政の相互理解と意欲・企画力の向上が欠かせない。松戸市が開催していた協働のまちづくり講演会の市民参加者減少が続いたため、平成 27 年度より 2 年目の協働事業として、本協議会と市民自治課にて協働・主催した。

1 講演会開催（共催＝聖徳大学生涯学習研究所）

11/28（月） 13:15-16:40 聖徳大学 10 号館 14 階ホール

- 基調講演＝鴨崎 貴泰 氏 (NPO 法人日本ファンドレイジング協会 事務局長)
- パネルディスカッション
 - ▶ 沖本 由季 氏 (柏市 保健福祉部医療公社管理課長)
 - ▶ 有川 かおり 氏 (聖徳大学生涯学習研究所 助手)
 - ▶ 新井 節子 氏 (五番街ふれあいセンター)

■ ポスターセッション (9 団体)

認定 NPO 法人外国人の子どものための勉強会、認定 NPO 法人たすけあいの会ふれあいネットまつど、NPO 法人人材パワーアップセンター、NPO 法人 MamaCan、NPO 法人子どもとまつど、自立サークル FC、ボランティア花水木の会、NPO 法人松戸子育てさぼーとハーモニー、本協議会

- 円卓をつかった、市民・行政職員混在の意見共有・交換

2 「協働のまちづくり／市民活動インタビュー」情報発信

団体インタビューを 5 件実施、事業「ストーリー」を紹介した。 <http://matsudo-npo.org/conte/>

事業費	241,182円
自己資金	24,299円
(労力換算額: 271,000円)	
負担金	216,883円



↑ 講演会の様子
インタビューHP
↓
← インタビュー冊子

平成 28 年度事業の成果

参加者数は、市民 63 名、市職員 25 名の計 88 名だった。アンケートより、市民については広報まつど・チラシやポスターを見て参加した人を合わせ半数以上、協働の概念にはほぼ触れていない層を巻き込めた。20 代～70 代と、現役世代から町会・自治会の中心層にも幅広く参加した。講演内容については、高齢の方を中心に理解が難しかったという声があり、高齢社会問題への直接の取り組みへの期待と、当日の基調講演・事例発表のような協働による社会システムの変革要請へのつながりを、講演会やそれ以外も含めて今後伝えていく必要性を感じた。他方、市職員については会場等調整を優先したことで月曜日の開催となり、参加人数が伸び悩んだ。参加した職員はアンケートで、ポスターセッションやパネルディスカッションに対して「理解できた」「満足した」が 6～7 割に達し、初めて参加した職員が 5 割だったことを考えると、相互理解に寄与する講演会とすることができた。

平成 29 年度事業の目標

3 年目は、先駆的に市民活動に参加している市民をモデルとして取り上げ「これなら私も参加できそう、取り組みそう」と感じてもらう。当日は、まちづくりにおける市民の活躍への期待、情報提供と合わせた活動のきっかけづくり、参加行動につながる講演会を実施する。

【協働事業者紹介】

特定非営利活動法人まつどNPO協議会は、40 以上の市民活動団体と市民が参加する連携事業体です。市内のNPO・市民活動団体・個人が「相互に情報交換、連携する場を提供すること」「市民の参加を促すこと」「多様な協働を促進すること」により、豊かで活力ある地域づくりに貢献します。

《問合せ先》

特定非営利活動法人まつどNPO協議会

電話＝090-9826-3729（担当＝山崎）、Eメール＝contact@matsudo-npo.org

団体ホームページ＝<http://matsudo-npo.org/>

市民活動助成事業（スタート助成）

「カレーを食べる会」事業	団体名	五番街ふれあいセンター
---------------------	-----	--------------------

【事業内容】

平成 28 年度事業の取り組み

五番街在住の 75 歳以上の単身者と 75 歳以上のご夫婦のうち、ご本人の意思を確認して会員 54 名、拡大会員 60 名 (30 組) を登録した。この 114 名を対象に、月に一回一緒に昼食を楽しむ会を開催している。

事業費	405,184円
自己資金	305,184円
助成金	100,000円

具体的には、毎月第四木曜日もしくは、金曜日に「カレー」中心にサブの一品とデザートの日食会を、今年度も無事に 12 回開催した。



＜本年度のトピックス＞

- ・会員で登録された方がスタッフを希望され元気に活躍されている。
- ・何回もお誘いしてお断りされていた方が、参加されるようになった。(101 歳の女性)
- ・「男の料理教室」の先生が会員になられてレシピのアドバイスを頂いている。



- ・誕生会を始めました。誕生月の方を、参加者皆で「ハッピーバースデー」を歌い写真を撮り翌月写真立に入れてプレゼントして喜ばれている。

平成 28 年度事業の成果

- 1 本年度の対象者の参加は、総数 573 名、会員 308 名 (平均 25.6 名) 拡大会員 205 名 (平均 18.3 名) また、地域のお客様、スタッフを加えると総数 792 名 (平均 66 名) の参加だった。
- 2 計画通り毎月一回、年間で 12 回無事に開催した。

平成 29 年度事業の目標

- 1 計画通りに毎月一回、年間 12 回開催する。
- 2 新松戸地区のマンションに「カレーを食べる会」の見守り活動を紹介しながら、地域での「見守り活動」の普及に貢献する。

【事業者紹介】

「五番街ふれあいセンター」(平成 23 年設立、参加ボランティア数：70 名) 事業

- ① 生活支援活動：ゴミ出しサポート、催事での外出困難者の代行活動 (お餅等販売品の購入配達) 催事での救護班編成 (納涼祭、餅つき大会で実施中)
- ② 見守り活動：声かけ、お話し相手
：カレーを食べる会
：男の談話室 (パートナーを介護している男性の集まり)
：ふれあい講座 (介護保険、介護施設、認知症等の勉強会)

《問合せ先》

団体名：五番街ふれあいセンター

住所：松戸市新松戸 7 丁目 7 番地 A 棟集会所内「五番街ふれあいセンター事務所」

電話：047-344-4410 FAX：047-344-4410

Eメール：fureai-center@jcom.zaq.ne.jp

市民活動助成事業（スタート助成）

<p align="center">「認知症に備える」為の 啓発活動事業</p>	<p align="center">団体名</p>	<p align="center">介護・認知症の家族と歩む会・ 松戸</p>
---	---------------------------	---

【事業内容】

平成 28 年度事業の取り組み

認知症の正しい知識の普及、啓発することにより認知症になっても、安心して暮らし続けられるようにすることが、この事業の目的です。その為に私達は、介護体験者、とくに認知症家族・当事者としての悩み、苦しみを一個人・家族のものとしてせず、より多くの方々に知って頂くことで、認知症を発症した時にも慌てることなく、介護する人も介護される人も、笑顔でいられることを目指しています。それが私達の考える、認知症に「備える」為の啓発活動事業の最終目標です。 具体的には

事業費	170,050円
自己資金	70,050円
助成金	100,000円

1 「認知症を学ぶ」講座・ワークショップを4つのテーマで実施

- * 認知症ってどんな病気 ・当事者の声を踏まえた認知症についての正しい理解を広める。
- * 認知症の症状は改善できる ・これまでの事例を元に、家族や当事者の諦めから、前向きな生き方を目指す。
- * 家族の「ことば」の力 ・家族間のコミュニケーションの重要性について共感・理解を目指す。
- * ときめいて生きる ・家族が抱きがちな、後ろ向きで否定的な言葉、「出来ない」を「出来る」に置き換える事を学び、当事者の自立・社会参加の促進等に寄与する。

2 当事者、家族による交流会・相談会 ・ワークショップは事実上、交流会・相談会的内容になる事も多く、交流会が社会参加への動機づけになる事が多い。



平成 28 年度事業の成果

「認知症に備える」、為に必要な情報を提供する講座2「地域で支える為の」講座・ワークショップ・相談会・交流会等について「講座」39回、「交流会」11回、「相談会」20回、「おしゃべり広場」7回、の開催が出来、様々な想いと経験を持った9人ものメンバーが地域内で活動に力をくれることになりました。

- ・大学の本格的協力を得られたこと
- ・多くの市民の方々の協力を得られたこと・地域の方々の不安(本音)が直接伺えたこと
- ・民間の商業施設を利用させてもらったこと

平成 29 年度事業の目標

講座・ワークショップ等の参加者100人を目標にします。講座・ワークショップの実施は各4回、社会福祉協議会との提携で「おしゃべり広場」は6回の開催、参加者の中から、地域内で情報発信や収集に積極的に関わられる仲間を10人、その中からワークショップや「おしゃべり広場」でファシリテーター的役割のできる5人の人材の確保を目指します。

【事業者紹介】

《問合せ先》 介護・認知症の家族と歩む会・松戸
 事務所 松戸市松戸 1139-1-808
 090-5509-5398 ao31212@s6.dion.ne.jp
 世話人代表 北川邦彦

市民活動助成事業（スタート助成）

健常児・障がい児ミックス型 共育を楽しむ事業	団体名	共育ステーション 地球の家
-----------------------------------	-----	----------------------

【事業内容】

平成 28 年度事業の取り組み

事業費	182,988円
自己資金	92,988円
助成金	90,000円

【事業の背景】

小学校までは、健常児と障がい児の交流の機会は多く設けられているが、中学校以降は、その機会はどんどん少なくなるのが現状。また、障がい児の子育てには、非常に多くの時間と手間がかかり、親だけではとても手が回らない。地域住民の温かな協力を得て、障がい児を複数の大人たちの手で育てていくコミュニティづくりも、次世代型の地域社会には強く求められる。

【事業課題】

「健常児・障がい児の交流の機会の長期継続」および「地域住民の温かな協力を得て、障がい児を複数の大人たちの手で育てていくコミュニティづくり」

【事業概要】

「健常児・障がい児ミックス型共育」の社会的・教育的メリットとその必要性を、より多くの保護者・地域住民に知っていただくためのパンフレットを作成し、イベントを6企画実施する。



■4/24（日）『春のライアーコンサート&バルーンアートで共育を楽しもう！』

■6/26（日）『プロの声優さんによる童話朗読会』

■6/26 同日開催『共育を楽しむためのトークカフェ！』

■8/7（日）『子どもの心と可能性が見つかる！親子のアートワーク』

■11/6（日）『ばなな先生の自分は自分でいい！を見つける親子自分科講座 & 共育トークカフェ』

■2/5（日）『たたいて・あそんで・つながる！ドラムサークル』



平成 28 年度事業の成果

イベント参加者や、本事業のパンフレットを見た方に、健常児と障がい児が同じ空間で学び合う教育手法の存在が認知され、社会的・教育的多様性の必要性を訴えることができた。

1 パンフレットの配布数 600 部

パンフレットを見た方の感想「本当に素敵な内容が書かれている」「自分の中学生時代にクラスに障がいを持った子がいたが、パンフレットの子育てのコツを読んで、障がいを持った人との接し方のコツは本当にその通りだなと思った」「共育という言葉にとっても共感する」全体的にとっても好意的な感想を寄せていただいた。

2 イベント6企画の動員数

目標：参加者 90 名 結果：参加者 104 名（おとな 55 名・子ども 49 名）

【事業者紹介】

週1回夕方放課後スクール（幼児～シニア）を行うほか、共育イベントを年に数回開催する。

《問合せ先》

【団体名】共育ステーション 地球の家

【事務局】千葉県松戸市常盤平5丁目27-3-304

【電話】047-387-1440

【MAIL】matsudo@chikyunoie.jp

【HP】http://chikyunoie.jp/

【担当者】熊谷 亜希子（くまがい あきこ）

市民活動助成事業（スタート助成）

子どもと高齢者の交流事業	団体名	子どもの未来を考える会
---------------------	-----	--------------------

【事業内容】

平成 28 年度事業の取り組み

あそびのひろば 8/3・8/9・3/28 の 3 日間実施

於：馬橋市民センター3F ホール

（8/3：子ども 57 名、スタッフ 21 名 8/9：子ども 46 名、スタッフ 16 名 その他保護者各日 8 名程度付き添いで参加）

（3/28 子ども 114 名、スタッフ 20 名 その他保護者各日 10 名程度付き添いで参加）

事業費	44,858円
自己資金	7,858円
助成金	37,000円

	8/3	8/9	3/28
参加した子供の数	57 名	46 名	114 名
遊びの内容	動くコウモリとお花、折り紙、ストローヘリ、紙コブター、ボードゲーム、トランプ、ぬりえ、カプラとドミノ、タンگرام、射的（9日はクイズ大会、じゃんけんゲーム）		スライム、ビュンビュンゴマ、折り紙、将棋、ぬりえ、カプラとドミノ、紙ブーメラン

西馬橋地域には戸建て住宅が多く、ほとんどが核家族世帯。高齢者には老老介護や孤独死の実態があり、子どもは不登校やその前段階にある予備軍が多数、それぞれ他にも様々な問題を抱えている。

“あそびのひろば”は子供と高齢者を中心とした大人がお互いを支え合う小さなコミュニティ作りの為の最初の一步として顔合わせし、地域にどんな子供がいて、どんな風に遊び、どんなニーズを持っているのかを調査する為のイベントで、今年の3/28で通算5回目になる。

馬橋小と旭町小の全面的な協力を得てチラシを配布、夏休みと春休みの長期休暇中、子どもの心の隙間を少しばかりながら埋め、高齢者は自分の力を再確認し、子どもは地域の大人と顔を合わせたり言葉を交わしたりして、こんな人があるんだと認識してもらうことができた。



高齢者ボランティアには、昔ながらの遊びを教えてもらったり、子どもがけんかにならないよう仲裁したり、また私達スタッフにどうやって子供を納得させるかを指導してもらい、「自分に何ができるかと思ったが、楽しめた」という感想をもらった。子どもは「とにかく楽しかった、またやりたい」と言ってくれ、この次に更に関係を深めていく足がかりとなったと感じている。

平成 28 年度事業の成果

設定目標の全校生徒の 8.2%以上の参加数（110 名）をクリアできた。

平成 29 年度事業の目標

少し関係がこなれてきたので、もっと会話を楽しむ時間を設けたり、一緒に遊ぶ時間を長くしたい。春にはあまり目立って気になる様子の子どもは見受けられなかったが、学校からももし見かけたら教えてほしいと言われているので、連携しながら平時の居場所活動でも注意して観察していく予定。

【事業者紹介】

毎週火曜日の 10：00～12：00 は高齢者の、15：00～17：00 は子どもの居場所を展開中

《問合せ先》

子どもの未来を考える会

〒271-0044 松戸市西馬橋相川町1 2 4

電話：047-312-0124（事務所/佐藤）090-8509-8932（広報/井口）

FAX：047-312-0125

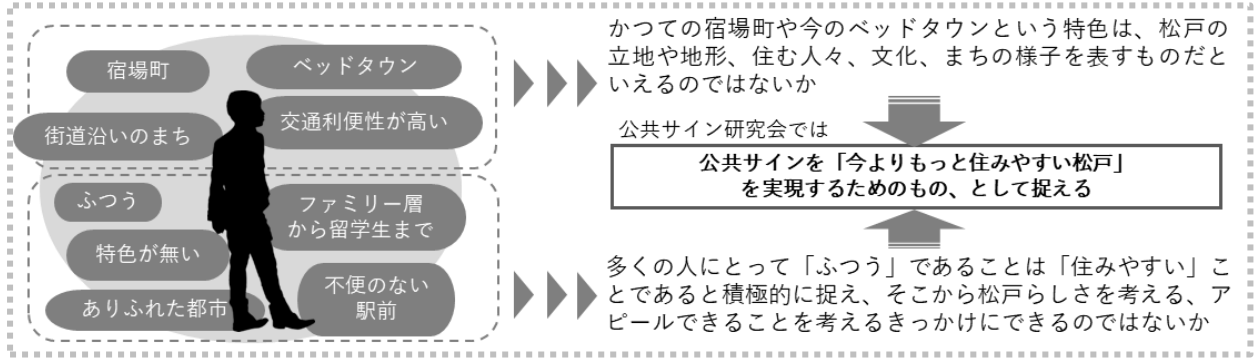
電子メール：comikamail@gmail.com 公式ブログ <http://ameblo.jp/comikamatudo>

<p>公共サインの改善で松戸市の街並みをレベルアップする事業</p>	<p>団体名</p>	<p>都市環境デザイン学研究室 公共サイン研究会</p>
---	------------	---

【事業内容】

<p>平成 28 年度事業の取り組み</p>	<p>事業費 119,788円</p>
<p>活動コンセプト</p>	<p>自己資金 19,788円</p>
<p>公共サインの改善を通して松戸のまちのジャンプアップにつなげる</p>	<p>助成金 100,000円</p>

単に「きれいに整える」ということを目指すのではなく、市民が松戸のアイデンティティとして認識するようなアイコンとなり、市の外へ松戸の魅力をアピールするツールとなり得るような、公共サインを通した「松戸のジャンプアップ」を目指しています。



平成 28 年度活動概要

- 平成 28 年 5 月～10 月；関連法制度、既往研究、歴史、事例等机上調査
- 平成 28 年 11 月；公共サインの優良事例調査（横浜市）
- 平成 29 年 1 月；松戸市街のフィールドワーク、公共サインの問題点・課題抽出（下記）
- 平成 29 年 2 月；講演会「公共サインが活かす松戸の魅力」及びディスカッションの開催（下記）

平成 28 年度事業の成果

<p>講演会「公共サインが活かす松戸の魅力」・ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：H29年2月4日（土）13：00～14：30 ・場所：岩瀬自治会館集会所 ・講師：(株)GK設計機能澄人（こうのすみと）様 ・講演テーマ：「まち、ひとをつなぐ公共サイン」 <p>当日は、20代～70代までの様々な世代の市民の方々6名が参加してくださいました。講演では、まずは「公共サインとは何か？」ということから始まり、日本各地の事例や海外での公共サインを通したまちのデザインについても紹介して頂きました。その後、会場の皆さんと我々のメンバーと一緒に、松戸市の公共サインに関する意見や、講演会の感想などを話し合い、共有することができました。参加者の方々からは、『「公共サイン」がまちの雰囲気を作り出せるかもしれない』というのいいですね、といった感想や、「住民にとって公共サインがいかに大切か、必要かを説いていく必要があると思う」、「今後も話を聞きたい」といった意見が挙がりました。</p>	<p>松戸市街のフィールドワークを通した松戸市の公共サインの問題点・課題の抽出</p> <p>松戸市のまち歩きルートに基づき、6つのルートでフィールドワークを実施しました。ルート上の経路に設置されている公共サインを確認しながら歩き、名所旧跡の案内看板などの「観光系」サインと、避難場所や注意書きの看板などの「生活系」サインの両方に着目し、現状を把握・分析しました。まち歩きルートの目的地に指定されているお寺や公園緑地等でも、そこに至るまでの道案内や、現地での解説等の公共サインが設置されていない場合が多く、訪れる人にとって分かりにくいという課題がありました。</p> <p>また、劣化により文字が読めない等の視認性に問題があるもの、色彩・デザインの統一性が無く、まちの景観にそぐわないものも多く見られました。今後は、これらの課題の解決だけでなくユニバーサルデザインや松戸のアイデンティティ形成までを見越した公共サインの在り方を考えていく必要があるといえます。</p>
--	--

平成 29 年度事業の主な活動予定：松戸市の公共サインに関するケーススタディの実施

- ① ユニバーサルデザイン、②景観、③アイデンティティの視点からケーススタディを行う。

平成 29 年度事業の目標

1. 研究会のメンバー以外のケーススタディ参加者 5 名以上、
2. ケーススタディを 3 パターン以上実施、
3. ケーススタディ報告会の参加者 40 名以上（うち一般市民 20 名以上）、
4. 活動記録概要版を市内公共施設 40 箇所配架

【事業者紹介】・団体名：都市環境デザイン学研究室 公共サイン研究会
 《問い合わせ先》・住所：〒271-8510 千葉県松戸市松戸 648 千葉大学園芸学部／担当者名：湯浅 かさね

市民活動助成事業（スタート助成）

<p>認知症を吹き飛ばせ！ 健康寿命を延ばそう事業</p>	<p>団体名</p>	<p>介護予防と認知症サポートの会 「しゃぼん玉倶楽部」</p>
--	------------	--------------------------------------

【事業内容】

平成 28 年度事業の取り組み

介護保険改正により軽度の介護状態の方の受け入れ先がなくなっていくことを踏まえ、地域包括ケアシステムの一部として市民自身による市民のための介護予防が必要となる。また認知症の方が増えていく現状からも、正しい知識を持ち地域ぐるみで見守り、支えあいの輪を広げることが大切である。それらの方々をサポートするための事業である。

具体的には ①介護予防教室の開催 ②認知症講演会の開催

介護予防教室は出張型も実施する。希望の場所へ出向いて教室を開催することが可能である。個別対応も出来るので、外出が困難な方や大勢の中で活動することが苦手な方へも介護予防をお届けすることが可能である。

〈 活動紹介写真 〉

事業費	135,400円
自己資金	35,400円
助成金	100,000円



H28/6/2

(医療講演会&体力測定会)



H28/6/7

(介護予防教室無料体験会)



H28/11/23

(介護相談交流会)



H29/1/26

(新春企画 笑いとヨガの健康体操)



H29/3/26

(地域交流イベント)

平成 28 年度事業の成果

一年間の事業として、多くのイベントを通じ、町会長・民生委員・地域の高齢者相談協力員などと協力して活動知ってもらい協力を仰ぎ、参加してもらいながら地域の中で広めることが出来ました。

- * 講演会・勉強会等 2回実施
- * 無料体験会 1回実施
- * 個別対応型教室 5回実施
- * 介護予防イベント 4回実施

上記のイベントを通じて認知症サポートの会の存在を地域の方々に知って頂くことが出来ました。引き続き、地元密着型のシニアサポート団体として、町会と協力しながら市民センターなどで季節毎のイベントを開催したり、自宅サロンは気軽に立ち寄っておしゃべりや情報交換ができるスペースとして利用してもらいたいと思っております。

【事業者紹介】

自宅サロンにて介護予防教室を開催する他、介護予防教室出前サービスも行う。認知症の方を介護する家族のためのサポートサロンを毎月開催している。

《問合せ先》

介護予防と認知症サポートの会「しゃぼん玉倶楽部」 代表 片岡千鶴子
〒270-2203 千葉県松戸市六高台 3-11-1 ☎080-3462-3481
Facebook 介護予防と認知症サポートの会「しゃぼん玉倶楽部」

市民活動助成事業（スタート助成）

医療・介護・福祉を学ぶ会事業	団体名	千葉県 東葛介護・福祉塾
-----------------------	-----	--------------

【事業内容】

平成 28 年度事業の取り組み

現役世代の市民が「医療・介護・福祉」を知る、学ぶ機会を提供。外部講師を招いて学ぶ会を開催。「超高齢社会の松戸市」に関心を持って頂く、きっかけづくりに取り組みました。

事業費	47,502円
自己資金	18,400円
助成金	29,102円

- 第 1 回 「みんなの終活 知らないと損をする葬儀業界のお話」
- 第 2 回 「がん 専門医が伝える最新医療と予防法」
- 第 3 回 「知っておきたい がんと闘うお金のこと」
- 第 4 回 「介護ロボット・生活支援ロボットの動向と導入支援について」
- 第 5 回 「若いうちから将来介護を必要としない身体づくりとは」
- 第 6 回 「お元気なうちから考える高齢者の住まい」
- 第 7 回 「高齢化に伴う空き家対策とお金のこと」
- 第 8 回 「脳卒中のお話 予防と新しい治療法」
- 第 9 回 「勇気を出して応急手当」
- 第 10 回 「松戸市の在宅医療について」
- 第 11 回 「自分と家族の旅たち（看取り）について考える」
- 第 12 回 「松戸市内 介護施設見学会」

開催：毎月 1 回 場所：松戸市勤労会館 時間：午後 7 時～午後 9 時参加費：1 人 ¥100



平成 28 年度事業の成果

参加者は延べ 184 名。

年齢層は 20 代から 70 代、医療介護従事者はもちろん、主婦の方や一般企業の方など幅広い参加者層。学ぶ会参加をきっかけに、参加者同士の交流が始まり、「多職種連携」のきっかけになるケース。また、傾聴ボランティア参加や認知症カフェ開催の検討ときっかけづくりに貢献する。

【事業者紹介】

千葉県 東葛介護・福祉塾
千葉県松戸市新松戸 4-29-1
koji@takei.name
武井厚司

市民活動助成事業（ステップアップ助成）

河原塚史編纂事業	団体名	河原塚史編纂委員会
-----------------	-----	------------------

【事業内容】

平成 28 年度事業の取り組み

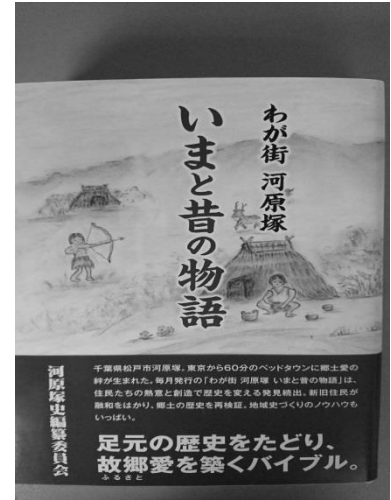
「地域づくり」は、住民の地域への愛着があつてこそ可能だ。そのためには多くの住民が、自分たちの地域の歴史を知り、地域の良さを知ることが大事だ。地域への愛着をもってもらい、地域づくりの基礎的な力をつくっていく。

この意識の下に、地域を愛し活動に意義を感じる住民の集まりからこの事業は発足しました。

平成 24 年からテーマを決めて、地域の歴史、風習、遊びをいまわかる限り調べてまとめ、毎月回覧とし、町会の住民に提供してきました。

平成 28 年度は、これまでの事業の総仕上げとしての冊子の発行に取り組みました。部数 2300 として 12 月中の発行。各家庭に無償にて配布し後世に末永く伝えることが目的です。

事業費	3,120,000円
自己資金	2,820,000円
助成金	300,000円



平成 28 年度事業の成果

- | | |
|--|------------|
| 1 河原塚四町会への回覧版配布 | 4 月から 12 月 |
| 2 冊子発行に河原塚三町会からの協賛金申し出 | 6 月 |
| 3 冊子発行の部数決定。千葉日報社に原稿提出。 | 7 月 |
| 4 千葉日報社と出版契約。 | 8 月 |
| 5 個人・事業所への出版協賛金依頼。
(期間は 9 月 1 日から 30 日) | 9 月 |
| 6 新聞社、市役所広報課から取材を受ける。 | 11 月 |
| 7 冊子 2300 部完成、発行。三町会員宅に 1340 部配布。 | 12 月 |
| 8 新聞 3 社にて事業が紹介される。20 日に南山自治会館にて
基調報告、座談会実施。29 日松戸伊勢丹にて出版記念式。 | 1 月 |

【事業者紹介】

冊子の発行をもって事業は完結しました。

《問合せ先》

河原塚史編纂委員会
 松戸市河原塚 5 0 5 - 1
 矢野 浩
 電話 0 9 0 - 3 3 1 2 - 8 8 8 6
 Eメール h-yano@aioros.0cn.ne.jp

市民活動助成事業（ステップアップ助成）

「高校進学のための 学力アップ教室」事業	団体名	認定 NPO 法人 外国人の子どものための勉強会
---------------------------------	-----	-------------------------------------

【事業内容】

<p>平成 28 年度事業の取り組み</p> <p>松戸市には日本語を母語としない小中学生が約 400 人いるといわれている。その多くは日本語や授業内容習得に苦勞し、特に高校受験は高い壁となっている。生徒の多くは県立高校前期試験で外国人特別枠を利用し、作文と面接で受験するが、受け入れ人数は少ない。</p> <p>後期試験では日本人生徒と同じく教科で受験しなければならない。</p> <p>当会では受験生には 2 年前から作文のほか、英語、数学の指導もしてきたが、今年度は基礎学力をつけるため国語も加えた。また指導には大学生の協力も得て、多方面から支援した。</p> <p>○スタッフ研修 5 月（国語）、6 月（英語）、7 月（数学）。10 月（多文化共生センター見学）</p> <p>○学力アップ教室 ・日曜教室：平成 28 年 9 月～平成 29 年 2 月。国語、数学、英語（各 8 回） ・冬休み教室：作文・面接指導（6 回）</p>	事業費	359,397円
	自己資金	59,397円
	助成金	300,000円

平成 28 年度事業の成果

○学力アップ教室全 30 回、生徒 20 名（全期間の出席状況）

科目	生徒	スタッフ	学生 スタッフ	計
国語（8 回）	105	49	15	169
数学（8）	96	52	20	168
英語（8）	102	46	25	173
作文・面接（6）	94	80	0	174
延べ出席人数	397	227	60	684



〈3 年生を送る会〉

生徒 1 人か 2 人に 1 人の指導者がつき、手厚く指導することができた。

生徒からは「文章を書く力を伸ばせた」「計算問題は完全にできるようになった」「文型を覚えた」などの感想を聞くことができた。

○進学実績

生徒たちは本事業を活用し、全力を尽くし、19 名が次の各校に進学した。

千葉県立松戸国際高校、松戸南高校、市川工業高校（定時制）、流山北高校、東葛飾高校（定時制）、我孫子東高校、鎌ヶ谷西高校、柏市立柏高校、埼玉県立三郷高校、東京都立一橋高校

【事業者紹介】

日本語を母語としない子どもたちの学習支援を行って 22 年になる。常盤平と松戸に常設教室を開設し、さらに夏期、冬期の集中勉強会、受験生のための日曜教室などを展開している。

《問合せ先》認定 NPO 法人 外国人の子どものための勉強会

松戸市新松戸 7-517 電話・FAX 047-345-2051

Eメール gaikokukodomo@msn.com ホームページ <http://gaikokukodomo.wordpress.com>

市民活動助成事業（ステップアップ助成）

<p>地域連携による成年後見制度の普及・啓発・利用促進事業</p>	<p>団体名</p>	<p>認定 NPO 法人東葛市民後見人の会</p>
--	------------	---------------------------

【事業内容】

<p>平成 28 年度事業の取り組み 地域の包括支援センター、高齢者支援連絡会などの関係団体と連携協力し成年後見制度の普及・啓発・利用促進のため事業を実施しました。</p>	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td>486,001円</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td>186,001円</td> </tr> <tr> <td>助成金</td> <td>300,000円</td> </tr> </table>	事業費	486,001円	自己資金	186,001円	助成金	300,000円
事業費	486,001円						
自己資金	186,001円						
助成金	300,000円						
<p>(1) 講演会の開催 3月4日（土）流通経済大学新松戸校舎にて「いつまでも住み慣れた場所で自分らしく暮らせるように！」講師：浅川澄一先生（福祉ジャーナリスト）を迎え実施しました。</p> <p>(2) 講習会・相談会の開催 10月1日（土）稔台市民センターにて「知って安心老後のあなたを支える制度、成年後見制度、遺言・相続」講師：宮田圭佑先生（司法書士）、10月29日（土）小金原市民センターにて「年を重ねても安心して暮らしていくために！」講師：遠藤英嗣先生（弁護士）他実施しました。 ＊成年後見制度についての無料相談会を10回（会場：勤労会館他）開催いたしました。</p> <p>(4) 市民後見人養成講座 1月14日（土）、21日（土）、2月4日（土）、2月11日（土）の4日間松戸商工会議所中会議室にて開催しました。 （3月4日（土）講演会風景）（10月29日（土）講習会風景）</p>							

平成 28 年度事業の成果

①講演会は新松戸地区高齢者支援連絡会、新松戸地域包括支援センターとの共催で実施し、地元の方を中心に120名の方が参加し、参加者からはアンケートで「素晴らしい話が聞けて今日は幸運でした！」などのコメントをいただきました。②講習会には延べ79名の方が参加し、相談会には6名の方が来談しました。③市民後見人養成講座には28名の方が参加し4日間熱心に講座を受講しました。受講した方からは「大変勉強になりました。」「さらに深く勉強したい。」との評価を受けました。

平成 29 年度事業の目標

成年後見制度は介護保険制度とともに超高齢社会を支える重要な制度です。29年度は「地域を支える安心システムへの取組事業～成年後見制度の普及・啓発・利用促進事業「第2弾」～」として引き続き講演会・講習会・相談会・市民後見人養成講座を開催し制度の普及・啓発・利用促進に努めて参ります。

【事業者紹介】 認定 NPO 法人東葛市民後見人の会

- ①ボランティア精神と社会貢献意欲を持った元気シニアや主婦などによる主体的・自発的な市民後見活動を行っています。
- ②地域コミュニティ後見プロジェクト（本部、東京大学内）との連携、行政など公的機関との連携、地域密着の3原則のもとに活動しています。

《問合せ先》 認定 NPO 法人東葛市民後見人の会松戸支部：松戸市八ヶ崎 5-14-10（堀井）

☎&Fax：047-344-1834 メール：y-h-1410@jcom.zaq.ne.jp URL：http://t-shimin-kouken.org

* 協働のまちづくり基金 *

平成28年度は 市民活動助成事業

10事業 を応援しました!!

【スタート助成】 「カレーを食べる会」事業 P. 4	【スタート助成】 「認知症に備える」為の啓発活動事業 P. 5	【スタート助成】 健常児・障がい児ミックス型共育を楽しむ事業 P. 6	【スタート助成】 子どもと高齢者の交流事業 P. 7	【スタート助成】 公共サインの改善で松戸の街並みをレベルアップする事業 P. 8
【スタート助成】 認知症を吹き飛ばせ！健康寿命を延ばそう事業 P. 9	【スタート助成】 医療・介護・福祉を学ぶ会事業 P. 10	【ステップアップ助成】 河原塚史編纂事業 P. 11	【ステップアップ助成】 「高校進学のための学力アップ教室」事業 P. 12	【ステップアップ助成】 地域連携による成年後見制度の普及・啓発・利用促進事業 P. 13

【 協働のまちづくり基金とは 】

市民、市民活動団体、事業者の皆様から寄せられた寄附金及びその同額を市費で積み立てるマッチングギフト方式を取り入れた基金です。この基金がまちを明るく元気にする「市民活動助成制度」の原資となっています。

市では、皆様からの寄附金のほか、チャリティー自動販売機の設置を通じて基金を育成しています。市民の皆様のご協力をよろしくお願いします。

HP 松戸市トップページ ▶ くらし ▶ 市民活動 ▶ 協働のまちづくり（市民活動の活性化と協働の推進） ▶ 協働のまちづくり基金

http://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/shiminkatsudou/kyoudou_machidukuri/kikin/index.html

平成28年度

協働のまちづくり基金

寄附者一覧(敬称略)

ご寄附頂きました皆様にお礼申し上げます。

★東京キリンビバレッジ株式会社 柏営業所

★株式会社 八洋 柏営業所

★エースター株式会社

★コカ・コーラ・イーストジャパン株式会社

★洗濯屋あべ

★松戸市二ツ木・幸谷土地区画整理組合



※公開希望のみ掲載

(申込受付順)



平成29年5月

発行

松戸市 市民部 市民自治課

〒271-8588 松戸市根本387-5

TEL 047-366-7062

FAX 047-704-4009

E-mail mshiminjichi@city.matsudo.chiba.jp